

歴史資料ネットワークとは

1995年2月、関西に拠点を置く大阪歴史学会・日本史研究会・大阪歴史科学協議会・京都民科歴史部会・神戸大学史学研究会・神戸史学会などの歴史学会を中心に、阪神・淡路大震災で被災した歴史資料保全のために設立。



活動の沿革

1995年2月4日

「阪神大震災対策歴史学会連絡会」を結成し、尼崎市立地域研究史料館内への情報センター設置

1995年2月13日

尼崎市立地域研究史料館内に「歴史資料保全情報ネットワーク」開設。ボランティアの常駐ならびに情報提供・依頼・相談の受付を開始。

1996年4月

ボランティア組織「歴史資料ネットワーク（略称：史料ネット）」に改組

2002年5月26日

会員制に移行

2004年10月～

台風23号の被害を受けた兵庫県、京都府北部の自治体や地域史研究団体と協力し、水損史料の救出活動を実施

2009年8月～

台風9号の被害を受けた兵庫県佐用町・宍粟市で、水損史料・アルバムの救出保全活動や救出史料の展示活用を実施

2011年3月～

東日本大震災による被災地の各資料ネットの支援を行いつつ、宮城資料ネットや山形ネット等と連携しながら救出活動を実施

2015年2月14～15日

「全国史料ネット研究交流集会」開催。「『地域歴史遺産』の保全・継承に向けての神戸宣言」を採択

WS「被災史料の取り扱いを学ぶ」

「資料保全ボランティア」メーリングリストの登録者アンケート調査をふまえ、発災後のレスキューから最終的な資料の返却に至るまでの経過に沿った全4回の座学・実習を開催。ボランティア、史料修復を学ぶ学生などのべ26名が参加。

- ① 9月10日
水損資料の吸水乾燥
- ② 9月18日
汚損資料の洗浄
すきばめ体験
- ③ 11月26日
焼損資料の応急処置
- ④ 12月2日
帳面などの和綴じ

H家所蔵史料のレスキュー

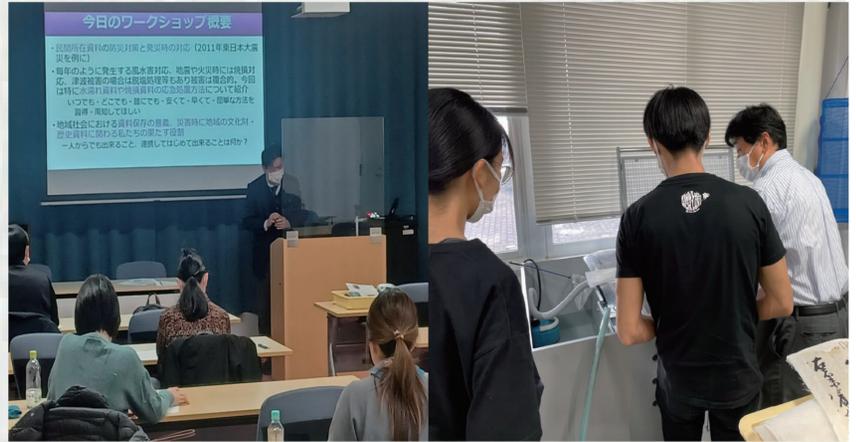
10月31日に個人宅の水損史料をレスキュー。藁半紙に書かれた書類や手紙など現代資料が大半で、泥の付着やカビ発生が見られるため、凍結とスクウェルチ処置を継続実施中。

ボランティア作業の再開

コロナ以前より行っていた、東日本大震災で被災した岩手県大船渡市旧家資料、2018年台風21号によって被災した大阪市旧家資料の対面での整理作業を再開。

兵庫区歴史講演会での講演

昨年2月25日に、神戸市兵庫区との連携事業として、兵庫津ミュージアムにて「『兵庫区』の誕生～近代兵庫のあゆみ～」というテーマで、当会代表・副代表が講演を行った。



座学の様子

リーフキャストマシンによるすきばめ体験



汚損資料を網戸で挟んで水洗い

帳面の和綴の実習



スクウェルチ処置①

スクウェルチ処置②



大船渡市旧家資料の撮影作業

大阪市旧家資料の撮影作業



講演会の様子①

講演会の様子②

